

故事成語 — 完璧

秦王が、趙王が持つ宝玉と、秦の一五の都市とを交換したいと申し入れてきた。秦王が約束を守らず、宝玉だけ奪われる不安もあったが、趙王の家臣藺相如は、強国秦の申し出を断らないほうがよいと説いた。

王曰はく、「誰か使ひすべき者ぞ。」と。

相如曰はく、「王必ず人無くんば、

臣願はくは璧を奉じて往きて使ひせん。

城趙に入らば璧は秦に留めん。

城入らずんば、

臣請ふ璧を完うして趙に帰らん。」と。

趙王是に於いて、遂に相如をして璧を奉じて

西して秦に入らしむ。

〈『史記』より〉

ところが、やはり秦王には都市を渡すつもりがないことがわかり、藺相如は秦王を責め、自分の命を捨てて宝玉をたたき割ると迫った。

趙王が言った。「誰が使者によいだろうか。」と。

藺相如が言った。「王様にどうしても人がございませんでしたら、

私が宝玉を捧げ持ち秦に行つて使いをいたしたく存じます。

都市が趙の手に入りますならば、宝玉を秦に置いてきましょう。

都市が手に入らなければ、

私に宝玉を無傷で趙に持ち返らせていただきたく存じます。」と。

趙王はそこで、そのまま藺相如に宝玉を持たせ

西に向かわせ秦に入国させた。